

## 南足柄市立南足柄中学校

研究テーマ：思考力、判断力、表現力等が高まる指導法の工夫

～主体的・対話的で深い学びをめざして～

### 1、実践の目的

本市の基本理念である「夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子ども」をめざす子ども像として、本校でもこれまで培ってきた学校教育の充実を図っている。

本校では長年、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を目指す中で、思考力、判断力、表現力等の育成をすることを校内研究の柱として行ってきた。様々な試みの最中ではあるが、今年度の学習に関する意識調査では、「人に対して、自分の考えや意見を伝えることが得意である。」との質問への肯定的回答は、50%台にとどまった。傾向として、自分で学習内容を理解できる割合に比べ、他者と対話的に学習することに苦手意識を持つ生徒が多い。

そこで、これまでの校内研究の成果を生かすとともに、生徒が主体となった学習を実現する授業改善に取り組む中で、対話を重視しながら生徒の思考力、判断力、表現力等をさらに効果的に育成する学びを創造するという目的で本テーマを設定した。

### 2、実践の内容

#### (1) 授業力向上

##### (i) 単元全体の見通しを持たせる授業の工夫

各教科において、「単元を貫く問い」の設定を進めた。単元全体を通して追究していく問いを教員と生徒が共有することで、生徒が学習に対して見通しをもち、主体的に

学習に取り組めるようにした。その際に、単元の学習活動を一覧できる単元カードの活用を試みた。単元の学習が終わった後に振り返りの活動を充実させることで、学習へのイメージがより明確になり、生徒の取り組みが主体的になっている。

また、学習課題や学習内容を検討する際に、できるだけ生徒の身近な生活や社会問題と関連付けることを意識している。学習内容によっては、他教科との横断的な学習につながり、一つの事柄を多角的に思考するきっかけにもなっている。

#### (ii) 研究協議の推進

各教員の授業力向上のため、本校では全教員が1人年1回以上の研究授業を行っている。研究授業では教員用端末を持参し、授業活動への意見をJamboardに書き込みながら、他教科での授業実践で活用できる点を模索している。Jamboardに書いた意見はリアルタイムで更新されるため、参観者も様々な気づきを得ながら書き込むことができる。

研究協議では、参観者が書き込んだJamboardを中心に、時系列で話を進める。活動の目的や単元計画を見直すことで、生徒の思考力、判断力、表現力の育成を進めている。また、多くの教員が研究協議に参加することで、教科横断的な視野で話し合うことにより、カリキュラムマネジメントの推進にもつながっている。

#### (2) 自らの言葉で考え、伝えることができ

る生徒の育成をめざした取り組み

(i) 校長講話

全校集会には校長講話が年6回計画されている。そのうちの4回は校長講話を聴いた後、教室でその講話について感想や意見を書く「聴いて、考える、伝える」活動を一年を通して行っている。決まった答えや正解はなく、自分の考えを文章化することで、思考が整理され、表現力が向上する。自分と他者の考えの違いを知ることによって価値観や多様性についても学ぶことができ、道徳教育がより促進されている。



(ii) 生徒主体の生徒会活動

月に一度、各専門委員会で話し合った内容を学習者用端末の Classroom に掲示し、各学級で話し合い活動を行っている。各委員会の活動報告や検討事項が整理されているため様々な質疑が行われている。これらの話し合いを踏まえて、生徒会本部主催の「ゴミゼロプロジェクト」などの取り組みが毎年行われている。全校で集合出来ない場合でも、Google meet を活用し、生徒間で話し合いが進められるような工夫がある。

(3) 目的に応じたICTの活用

今年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問(33)「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)?」との問いでは週に1回以上と答えた生徒は約95%で、全国平均を20ポイント以上も上回った。各教科において、ICTを活用した授業が増えていることは

間違いない。今年度は、次のような取り組みを進めた。

- ① 個に応じたドリル学習で知識・技能の定着を図る。
- ② 理科や社会科等で学習したことをレポートにまとめさせる。
- ③ 保健体育科で自分の運動を撮影したり、英語科で自分の発話を録音したりして、客観的に学習内容を振り返らせる。
- ④ 特別活動等で他者と協働での意見整理の場に授業支援ソフト等を活用する。

### 3、実践の成果

各教科において、生徒が単元の見通しをもって学習に取り組めるようにしたことで、生徒の取り組みが主体的になっている。

また、多くの教員で研究協議を推進し、教科横断的な視野で話し合うことにより、カリキュラムマネジメントの推進にもつながっている。授業のみならず、生徒会活動や校長講話をとおして、生徒の主体性を養い、道徳教育の推進にも取り組むことができた。

### 4、今後の展開

生徒の思考力、判断力、表現力等をさらに効果的に育成する学びを推進するためには、研究授業だけでなく、普段の授業から指導方法の工夫について積極的に話し合うことが必要である。教科を横断的に捉え、他教科の指導方法から積極的に学ぶ姿勢をもちたい。

また、近年はICT活用に力を入れており、様々な活用事例が報告されている。状況に応じて、どのような指導方法が効果的なのか、生徒の実態と照らし合わせながら検証が必要な時期になっている。これらの課題を教職員で共有し、具体的な実践につなげていきたい。